〈糠内3年〉福島 女子200も銀獲得

全国中学体育大会

全国中学校体育大会は22、23日、道内各地で各競技を行った。陸上競技は女子二百㍍で福島千里（糠内3年）が前日の百㍍に続いて準優勝を飾り、女子三種競技Bでは佐藤彩香（駒場2年）が5位入賞を飾る健闘。この大会で十勝勢は3人が計4種目で入賞する活躍を見せた。バスケットボールは帯四女子が予選リーグ1位で勝ち上がって決勝トーナメント1回戦に臨んだが惜しくも敗れ、全国16強だった。卓球は22日の団体戦第1ステージで音更女子が敗退、23日午前は個人戦シングルスが始まり、上野友見（札内2年）、逢坂沙絵子（帯一3年）が1回戦で敗れた。

（岡部彰広、古田千晶、丸山一樹、折原徹也、金野和彦）

【女子二百㍍決勝】金メダルを目指し、最後のフィニッシュに入る福島千里（糠内3年、ゼッケン104）。惜しくも高橋萌木子（三郷早稲田・埼玉、左端）に敗れ、2位となる

陸上

女子三種B 佐藤（駒場2年）5位入賞

（22日・札幌厚別公園競技場）

最終日の22日は、男女13種目が行われた。前日の女子百㍍で準優勝の福島千里（糠内3年）は二百㍍準決勝を25秒82で通過、決勝では高橋萌木子（三郷早稲田3年・埼玉）に終盤かわされ、25秒48で2種目の銀メダルに輝いた。十勝勢女子の二百㍍入賞は第24回大会の木田真有（帯緑園）の2位、白濱佳苗（浦幌）の8位以来6年ぶり。同三種競技Bの佐藤彩香（駒場2年）は3060点をマークし、上級生を退け5位入賞を果たした。十勝勢女子の混成競技入賞は第20回大会の奥山花恵（帯八）の3位以来10年ぶり。男子二百㍍の鈴木俊広（帯八3年）は準決勝2組で22秒65を記録し3位に入ったが、惜しくも敗退した。同三種競技Bの古澤元基（本別3年）は2952点で19位となった。

（22日・札幌厚別公園競技場、決勝1位以外管内関係分）

＜準決勝＞

【男子】◇二百㍍▽2組＝③鈴木俊広（帯八）22秒65（向かい風2・0㍍）・準決勝落ち

【女子】◇二百㍍▽3組＝①福島千里（糠内）25秒82（向かい風1・0㍍）・決勝進出

＜決勝＞

【女子】◇二百㍍＝①高橋萌木子（三郷早稲田・埼玉）25秒37②福島千里（糠内）25秒48（向かい風0・9㍍）

◇三種競技B

【男子】①木内康寛（北島・徳島）3169点⑲古澤元基（本別）2952点（砲丸投げ・12㍍18、走り幅跳び・6㍍20、四百㍍・54秒88）

【女子】①石田麻美（茨木西・大阪）3203点⑤佐藤彩香（駒場）3060点（走り幅跳び・5㍍30、砲丸投げ・11㍍00、百㍍障害・15秒34）

【女子三種競技B】最終種目の百㍍障害に挑む佐藤彩香（駒場2年、手前）

次期エース育つ

○…佐藤彩香（駒場2年）は女子三種競技Bで大健闘の5位。走・跳・投が万能でなければ上位入賞できない種目で2年生が快挙を達成した。

走り幅跳びを自己新の5㍍30、砲丸投げを11㍍00で終え、その段階では4位。メダルの期待も膨らんだが、最終の百㍍障害では最も強い向かい風の組に入り、自己ベストから0秒2以上遅れる15秒34に終わった。「あと少しで4位だったのにな」と2点差の5位に悔しがるが「（入賞できたことは）すごく自信になる」と笑顔を見せた。

三種競技は、今季の全国中学大会で廃止されるため佐藤は来季、四種競技か、走り幅跳び、百㍍障害で全国上位を狙う。身長161㌢、体重45㌔。佐藤が所属する十勝陸上クラブの久朗津孝之代表は「非常にバネのある選手」と素質は抜群。今年で十勝のエース・福島千里（糠内3年）は中学を卒業するが、次のエース候補が育っている。

【男子三種競技B】得意の走り幅跳びでは6㍍20をマークする古澤元基（本別3年）

無情のファウル

○…男子三種競技Bに臨んだ古澤元基（本別3年）は、自己ベスト（2988点）に迫る2952点をマークしたが19位となった。走り幅跳びでは2回目で6㍍50近くを跳んだが無情にもファウル。惜しい跳躍だった。入賞を視野に大会に臨んだ古澤にとっては悔しさも残るが、自信を持って「出場できて良かった」と大会を振り返った。

0秒09差で決勝逃す

○…北海道ショートスプリント（百㍍、二百㍍）のエースとして全国に乗り込んだ鈴木俊広（帯八3年）は、男子二百㍍準決勝に臨んだが、あと一歩のところで決勝を逃した。組では3位。準決勝各組の2位までと、3位以下で上から2人が決勝へ進めたが、鈴木は3位以下の中で3人目。0秒09差で及ばなかった。

「全く体が動かなかったわけではなかったのだが」と鈴木。準決勝落ちが決まった瞬間、思わず天を仰いだ。中学1年、2年とジュニア五輪（学年別全国大会）で入賞してきた鈴木にとっては何ともいえずつらい瞬間だった。しかし「これからも頑張っていきたい」。鈴木の競技生活はこの日から新たにスタートした。

【男子二百㍍準決勝】決勝を目指し力走する鈴木俊広（帯八3年、中央のゼッケン114番）

「金」逃すも原石の輝き放つ 福島

高校、一般での飛躍に期待

女子二百㍍決勝。21日の百㍍に続き、決勝に残った福島千里（糠内3年）はカーブを勢いよくトップで抜けたが、ラスト20㍍で高橋萌木子（三郷早稲田3年・埼玉）にかわされ0秒11差で2位。最後の最後で金メダルを逃した。

「ラスト50㍍からは、急激にスピードが落ちた。肉体的疲労と、日本中学ランキング1位というプレッシャーがあったのでしょう。その中でよくやった」と指導する十勝陸上クラブの久朗津孝之代表。初の全国中学大会。3日間でこなした6本のレースはこれまでになく密度の濃いものだった。

身長156㌢、体重42㌔のきゃしゃな体格。母の玲子さんは「生まれたときも体重は2600㌘と小さかった。1歳までは発育も遅れていたので心配だった」と話す。その福島が今では日本中が注目するスプリンター（短距離走者）に成長した。

「わたし、陸上のこと、ほとんど分からないんです」と福島が大会前に語っていたように、本格的なランニングフォームを教わったことはなかった。が、ダイヤモンドは原石のまま大きく輝き始めた。久朗津代表が「高校、一般で芽が出る選手になってほしい」と、競技の楽しさと基礎体力アップを重点に指導してきた成果だ。

「これ以上、順位を落とさないよう頑張りたい」（福島）と、今後も常にトップ選手であり続けることを誓う。中学最高峰の舞台で取り損ねた金メダルは、高校最高の舞台・インターハイでもぎ取るつもりだ。

十勝勢の歴代全中陸上成績

第30回大会は22日現在

大会	年	選手名	学校	種目	記録	順位
第1回	74年	高橋　季里	帯七	女子三種競技	2725点	8位
第4回	77年	青山　登美	音更	女子100M	12秒82	7位
				女子200M	26秒49	6位
第19回	92年	八田　那奈	共栄	女子1年100M	12秒82	3位
第20回	93年	奥山　花恵	帯八	女子三種競技A	2976点	3位
第21回	94年	八田　那奈	共栄	女子200M	25秒26	3位
		高橋麻利子	駒場	女子走り高跳び	1M63	優勝
第23回	96年	木田　真有	帯緑園	女子200M	26秒64	6位
第24回	97年	土田　志織	上士幌	女子100M	12秒73	3位
		白濱　佳苗	浦幌	女子100M	12秒75	5位
				女子200M	26秒70	8位
		木田　真有	帯緑園	女子200M	25秒28	2位
		帯緑園		女子400リレー	49秒53	3位
第25回	98年	山本　鈴菜	上士幌	女子100M障害	14秒87	6位
第28回	01年	阿部友佳里	浦幌	女子砲丸投げ	13M27	5位
第29回	02年	谷中　啓祐	帯三	男子200M	23秒38	8位
第30回	03年	西　貴裕	下音更	男子400M	50秒79	4位
		福島　千里	糠内	女子100M	12秒74	2位
				女子200M	25秒48	2位
		佐藤　彩香	駒場	女子三種競技B	3060点	5位

十勝勢、入賞4の好成績

木田（福島大一 帯南商高出）の活躍刺激に

指導者の熱意、環境整備実る

入賞を果たした十勝勢。左から佐藤彩香（駒場2年）、西貴裕（下音更3年）、福島千里（糠内3年）

十勝からは過去最高の13選手が出場、福島千里（糠内3年）の百㍍、二百㍍の2種目銀メダルをはじめ3人で4つの入賞を勝ち取った。これは6年前に木田真有（帯緑園、現福島大）ら3人とリレーで入賞計5だった第24回大会に次ぐ成績だ。

道選手団監督も務めた下音更中学の川崎信介監督は「向上心、能力の高い選手が今年は多かったことと、指導者の質が良くなってきたことが結果につながった」と分析する。きっかけの一つに「十勝出身のトップ選手の存在がある」と同監督。アジア大会日本代表の木田の活躍は刺激になった。木田が帯南商高時代にインターハイ、国体で入賞、優勝した1999年、2000年以降、十勝の中学生も01年、全国入賞して [illegible] 十勝陸上競技協 [illegible] 朗津孝之理事長を [illegible] チ陣に自ら進んで [illegible] 持ちがあり、連携 [illegible] に良い」と目を見 [illegible] 校の隔たりを無 [illegible] 普段の練習、大会 [illegible] 中に指導者同士が [illegible] 情報交換し、高 [illegible]

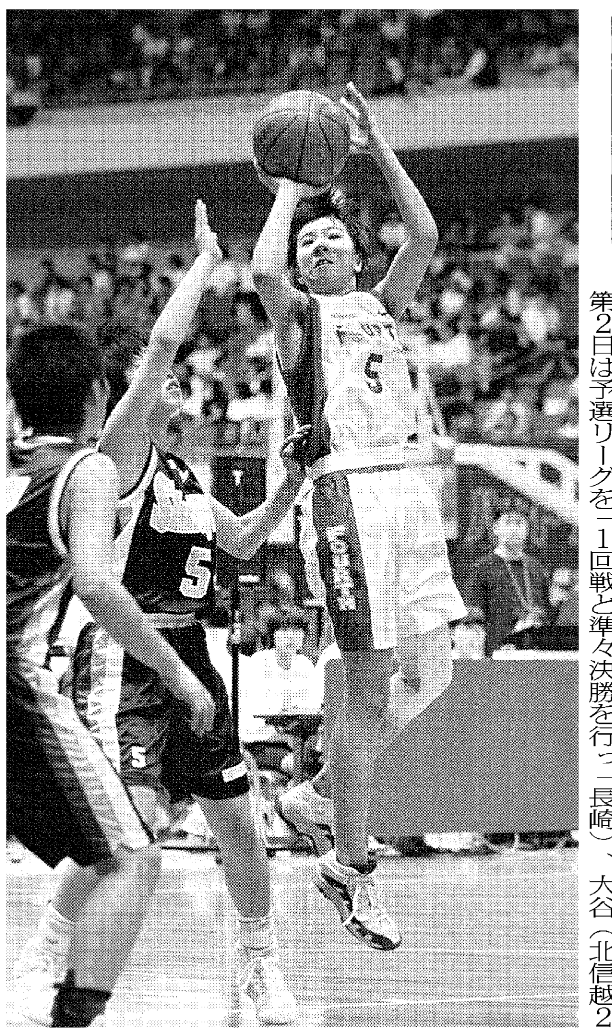
また今年、設立 [illegible] の十勝陸上クラブ [illegible] も大きい。中学校 [illegible] ない選手と、小学 [illegible] 属する同クラブか [illegible] 大会にも福島千里 [illegible] 3年）、佐藤彩香 [illegible] 2年）、中島悠貴 [illegible] 2年）が出場、う [illegible] が入賞。選手の能 [illegible] かした。常に高い [illegible] に目を向ける選手 [illegible] 者と、環境整備に [illegible] れる十勝陸上界全 [illegible] 力が報われ始めた。

帯四女子8強ならず

バスケット

（23日・道立総合体育センター）

第2日は予選リーグを勝ち上がった男女各16校による決勝トーナメント1回戦と準々決勝を行った。女子は22日の予選リーグで純心（九州3位・長崎）、大谷（北信越2位・石川）に連勝し、十勝勢初の1位突破を果たした帯四がPブロック2位の盛岡白百合（東北1位。岩手）と対戦。序盤からシュートミスなどで点差をつけられた帯四は、反町真理子主将（3年）を中心に反撃を試みたが、後半になっても流れを引き寄せられず35―50で敗退、ベスト8入りを逃した。


【決勝トーナメント1回戦・帯四―盛岡白百合】第4クオーターに入り、後がない帯四は1分すぎ、相手マークを振り切った⑤武藤未来がミドルレンジからジャンプショットを放つ

【女子】◇予選リーグ▽Pブロック

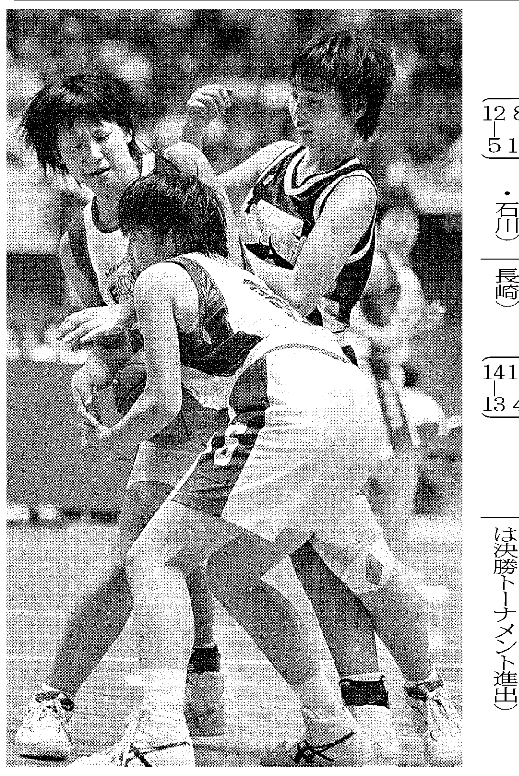
帯四 44（13―8、11―5、8―14、12―5）32 大谷（北信越・石川）

純心（九州・長崎）48（7―4、15―5、12―4、14―13）26 大谷

▽最終成績＝①帯四2勝②純心1勝1敗③大谷2敗（帯四、純心は決勝トーナメント進出）

◇決勝トーナメント▽1回戦

盛岡白百合（東北1位・岩手）50（17―11、13―7、13―8、7―9）35 帯四


第3クオーター開始直後、12点差を追う帯四は⑥片桐恵美（右）、④反町真理子がオフェンスリバウンドを積極的に狙う

不完全燃焼の試合

「来年こそ決勝Tで1勝を」

「このメンバーで1つでも多く試合がしたい。優勝したいです」。ただ1人の3年生の反町真理子主将が、こう意気込んで臨んだ決勝トーナメント1回戦は、本来の力を出せずに敗れた。堅守からリズムを作るのが帯四のターン。しかし前日の熱戦の疲労からか高畠恵樹コーチが首をかしげるほど動きは悪かった。相手が正確なショットで点を重ねるのに対し、帯四は期待の2年生たちがイージーシュートを逃した。

相手に3人、4人と囲まれながら突破口を見出し、6ゴール12点を挙げた反町主将も「自分のプレーができなかった。（後輩たちを）勝たせてあげたかった」と大粒の涙。「勝てない相手ではなかった。バスケットとしては負けていない」（高畠コーチ）。不完全燃焼の試合だったが、好チームを育て上げてきた同コーチは「新チームは大黒柱がいなくなっても何とか頑張りたい」と雪辱を誓った。反町主将も「先生についてきたことは間違いじゃなかった。後輩たちには来年こそ（決勝T）で勝ってほしい」と言葉を贈った。

相手にプレッシャー掛けられなかった

帯四・武藤未来（2年）の話　予選リーグの純心戦と違い、ディフェンスで相手にプレッシャーが掛けられなかった。新チームは1人ひとりが得点できる選手になって全十勝、全道を絶対に勝ち、また全国に出たい。

上野（札内2年）逢坂（帯一3年）初戦敗退 女子単

卓球

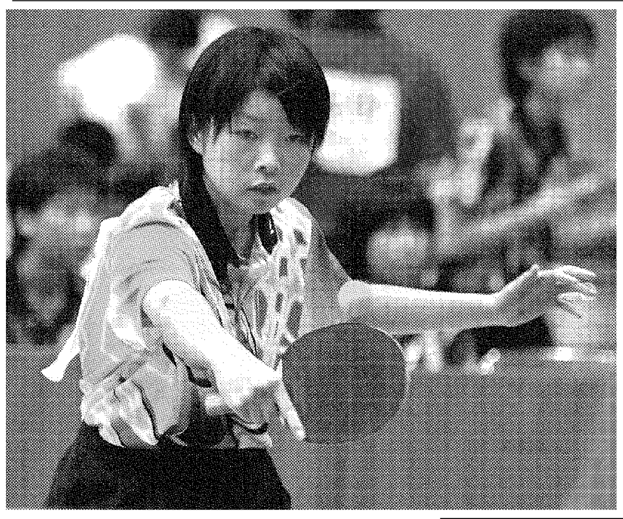
（23日・苫小牧市総合体育館）

大会3日目は男女個人戦シングルスが午前10時半から開始された。1回戦の上野友見（札内2年）は0―3で馬文婷（東京・国立第二1年）に、逢坂沙絵子（帯一3年）は早田知世（鹿児島・松元3年）に0―3で敗れて初戦突破はならなかった。22日の団体戦第1ステージ（予選リーグ）女子Cブロックの音更は、2戦目の名古屋経済大学高蔵（愛知）から、第4シングルス清水梨沙恵（3年）が1勝を挙げたが、健闘及ばずポイント1―4で敗れた。

【女子】＜団体戦＞◇第1ステージ▽Cブロック（22日・関係分）

明徳義塾（高知）5―0 音更（北海道）
宮崎 3―0 赤岡
土田 3―0 池田晴
的場・上田 3―1 杉森・林原
和田 3―0 戸村
平田 3―1 清水

名古屋経済大学高蔵（愛知）4―1 音更
加藤 3―0 赤岡
藤井 3―0 戸村
大竹・沓名 3―1 池田有・徳本
菱田 0―3 清水
市川 3―0 林原


【女子団体戦第1ステージ、音更―名古屋経済大学高蔵】音更の第4シングルス清水梨沙恵（3年）が1勝を挙げた

最高のプレーで唯一の1勝挙げる

○…音更女子の第1ステージ突破はならなかった。初戦の明徳義塾（高知）に敗れ「最後の試合にはしない」（杉森麻那主将3年）と結束した名古屋経済大学高蔵（愛知）戦。気迫あふれるプレーを見せ続け、第4シングルス清水梨沙恵（3年）が「決してあきらめなかった」と唯一の1勝を挙げた。

「一生懸命な最高のプレーだった」と長江教貴監督は全員をたたえた。団体戦登録の8人中、6人の3年生は中学から卓球を始めた。1年生時は「全国に行けるなんて思いもしなかった」（杉森主将）。長江監督が教えた「だれよりも努力すること。礼儀や相手 [illegible] やる心を重んじ [illegible] 続の全国を実現 [illegible] 林原あゆみ（3 [illegible] 「長江先生の激励 [illegible] を生んだ」と感謝 [illegible] 3年生の努力は後 [illegible] 伝わった。池田有 [illegible] 年）は「来年も必 [illegible] に来ます」と誓っ [illegible]